

各 位

会 社 名 プレミアアンチエイジング株式会社
 代表者名 代表取締役社長 松浦 清
 (コード番号：4934 東証グロース)
 問合せ先 執行役員 コーポレートコミュニケーション本部長
 上原 祐香
 (TEL. 03-3502-2020)

通期業績予想の修正に関するお知らせ

2023年6月14日開催の取締役会において、下記のとおり、2023年7月期(2022年8月1日~2023年7月31日)の通期の業績予想を修正することいたしましたので、お知らせいたします。

1. 通期連結累計期間の業績予想数値の修正(2022年8月1日~2023年7月31日)

	売上高	営業損益	経常損益	親会社株主に 帰属する 当期純損益	1株当たり 当期純損益
前回発表予想(A) (2022年12月14日)	百万円 30,000	百万円 1,500	百万円 1,520	百万円 820	円 銭 94.03
今回修正予想(B)	26,500	△720	△710	△720	△82.57
増減額(B-A)	△3,500	△2,220	△2,230	△1,540	-
増減率(%)	△11.7%	-	-	-	-
(参考)前期連結実績 (2022年7月期)	33,911	2,414	2,572	1,424	163.35

2. 修正理由

当社の主力商品「デュオ ザ クレンジングバーム」の第3四半期連結会計期間における売上高は、クレンジング市場及びバーム剤型の競争激化が継続していることから、通信販売及び卸売販売ともに大きく減少しました。通信販売においては、主にオイル剤型へ転出する顧客が想定以上に増えていること、また卸売販売においても、競合による低価格のバーム製品にシェアを奪われており、「デュオ」の売上高減少が続いております。第2四半期決算公表時点においては、CPOが安定的に推移していたことから、第3四半期以降においても広告効率を重視しながら売上高の成長に必要な投資を積極的に実行していく計画でしたが、より一層のLTV改善に向けた新規獲得施策が想定通りに効果を出せず、新規獲得が低位で推移しており、第4四半期連結会計期間においても「デュオ」の売上高減少が見込まれます。

一方、「クレイエンス」は、若年層の白髪ケアというコンセプトがブランドローンチ以降早期に市場に浸

透したことから順調に成長を遂げており、今期のブランド成長を強く見込んでいましたが、LTV改善に向けた新規獲得施策の実施に伴い、CPOとLTVの関係が第3四半期において悪化し、売上に直結する新規獲得が抑制される結果となりました。

以上の要因から、主に「デュオ」と「クレイエンス」の2ブランドが売上高予想を押し下げ、売上高は265億円となる見込みです。

また、利益面においては、売上高の減少に伴い売上総利益が減少することに加え、第3四半期連結会計期間に棚卸資産評価損を約5億円計上し、第4四半期連結会計期間においても、棚卸資産の一部評価損の発生を織り込むことなどから、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益を上記の通り修正いたします。

なお、上記棚卸資産評価の背景は下記の通りです。

前期末より在庫は着実に減少しておりますが、売上高の減少や一部ブランドの撤退、海外事業の戦略見直しなどに伴い、一部の製品については売上げが販売計画を下回り在庫が滞留しております。そのため、強固な財務体質を維持し、将来に向けた再成長の基盤を確固たるものとするべく、一部の製品の販売状況を勘案し、第3四半期連結会計期間において棚卸資産評価損を計上いたしました。

当期において業績予想を連結純損失に下方修正することで、株主の皆様を始めとするステークホルダーの皆様にはご心配をおかけすることとなりますが、当社の今後の戦略的取組みについては随時経営陣で議論を重ねており、然るべきタイミングにてご説明を申し上げます。

(注) 上記の予想は現時点で入手可能な情報に基づいたものであり、実際の業績は今後様々な要因によって異なる可能性があります。

以上